

# ファイト

## No. 34

通算戦績: 27戦21勝(7KO)5敗1分

## 2017年を振り返って 3戦2勝1敗

### 日本3位、東洋13位

大は28歳。プロボクサーとしてライト級でデビューし10年が経過した。主戦場をライト級・スーパーフェザー級・フェザー級と体重を落としながら戦ってきた。通常の選手は徐々に体重を増加させて戦うのだが、大は逆に体重を減少させてきた。トレーニングを続けるのに伴い筋肉量は増えていくためクラスを下げて軽量級で戦うには減量が厳しくなるのだがストイックな生活の節制と意思によりフェザー級で戦っている。今年は3戦闘い結果は2勝1敗だった。11月期の日本フェザー級ランクは3位。10月期の東洋フェザー級13位となっている。今年10月の日本タイトルマッチの挑戦権をかけた、最強挑戦者決定戦には残念ながら涙をのんだが、来年は再度チャンスが訪れるだろう。今度こそはチャンスをつかまなければならない。



2017.1.31.後楽園ホール

#### 1月31日、第25戦、山口翔太選手 8ラウンド判定勝利

大は2017年の初戦として後楽園ホールのセミファイナル8回戦に登場した。対戦相手は真正ジムの山口翔太選手で戦績は17戦14勝8KO3敗の26歳。2012年の西日本新人王になった好選手だった。

#### 試合展開

1ラウンド終了時点で山口選手はスピードはなく、左ボディと右アッパー、ストレートを多用し、殆どジャブを打ってこないのを見切り、大は左ジャブを出しながら右アッパー、ストレート、左ボディ、フックと色とりどりにパンチをヒットさせ、完全に距離を制御した。

山口選手は積極的に前に出てくるが大のジャブに氣勢を削がれ、パンチは空を切る場面が多い。応援団からの“いらい”コールが熱を帯びてきた。

8ラウンドを戦い、4ポイント、6ポイント、6ポイント差の3-0(78-74、79-73×2)の安定した判定勝ちで圧倒的な勝利だった。



おやじのひとこと



大は10月21日の最強挑戦者決定戦に負けて日本チャンピオンへの道が遠ざかった。痛い敗戦だった。敗戦後は随分気分が落ち込んでいたようだが、このごろは気持ちに整理がついたようで前向きになってきた。

11月期の日本ランキングは3位である。今後、またチャンスが訪れるだろう。理想と目標を高く掲げて前進しよう。

岩井 大 ファンクラブ機関紙(年4回発行)

発行者: 岩井 淑

住所: 〒262-0032

千葉県花見川区幕張町4-2 LM3-104

連絡先: Tel:043-272-0825 Fax:043-272-0825

URL: <http://kuchan.ec-net.jp/index.htm>

Mail: [iwai-8man8@marble.ocn.ne.jp](mailto:iwai-8man8@marble.ocn.ne.jp)



2017.4.21.後楽園ホール

#### 4月21日、第26戦、齋藤正樹選手 8ラウンド判定勝利

大は日本フェザー級4位。対戦相手は日本ライト級7位でチーム10カウントジムの齋藤正樹選手。戦績は30戦13勝4KO11敗6分。

#### 試合展開

1ラウンド、いつもは様子見のスロースターターの大だが今回は距離を詰めるように積極的にジャブを出していった。2ラウンドからは相手との距離感がつかめてパンチ範囲を見極めたのか潜りながらの体勢でジャブ、アッパー、フックを次々に繰り出す。

後半に入ってもパンチのヒット率は大のほうが多く、相手のパンチは殆ど受けていなかった。6ラウンドには終了30秒間の攻勢で相手は足元がよろめきKOのチャンスかと思われたがゴングに救われた。7、8ラウンドは齋藤選手が最後の頑張りを出して盛り返した。

結局、判定勝負となり、4ポイント、3ポイント、イーブンの2-0(78-74、78-75、76-76)の判定勝ちだった。



2017.10.21.後楽園ホール

#### 10月21日、第27戦、源大輝選手 8ラウンド判定負け

日本フェザー級1位の大は後楽園ホールで開催された『日本タイトル最強挑戦者決定戦』に6か月ぶりのリングに登場した。

#### 試合展開

1ラウンド、2ラウンドは早くも対戦相手との距離感をつかみ快調の滑り出しだった。相手との絶妙な距離を取りながら出入りの早いボクシングでジャブ、アッパー、フック、右ストレートを次々に繰り出した。

同様の展開が3ラウンドも続いたが、残り僅かな段階で接近戦の最中に対戦相手のパンチを右目瞼に受け、ザックリ切ってしまった。

流血によりドクターチェックが、3、5、7ラウンドと3回入った。鮮血が飛び散る壮絶な打ち合いが展開されたが結局、8ラウンドの判定勝負となり、3ポイント、2ポイント、1ポイント差の3-0(78-75、77-75、77-76)で判定負けだった。敗因は3ラウンドに右目瞼を切ったことであつたが残念だが仕方のないことであつた。